

館の共通目標	安定した運営体制の確立。継続事業は効率化させ、検証や計画に十分な時間をとることで質を向上させていく。							
細事業別目標【展覧会】	各職員の専門性を活かして研究や企画力を充実させていく。広報や展示を通して丁寧な伝え方の工夫を行う。							
展覧会名称	身体と記憶 アーツ前橋所蔵作品から	やなぎみわ 神話機械	収蔵作品展2(誰かに宛てた贈りものー前橋市収蔵美術品ものがたりー)	Art Meets 06 門馬美喜/やんツー	山本高之とアーツ前橋のピヨンド 20XX:未来を考えるための教室	表現の生態系 世界との関係をつくりかえる	前橋の美術2020 トナリのピジョン	
会期・日数	2019/4/19-2019/7/9 /71	2019/4/19-2019/6/23 /57	2019/7/19-2019/9/16 /58	2019/7/19-2019/9/16 /58	2019/7/19-2019/9/16 /58	2019/10/14(10/12)-2020/1/13 /	2020/2/8-2020/3/3(3/15) /32	
場所	ギャラリー1	地下ギャラリー	ギャラリー1	地下ギャラリー	地下ギャラリー	全ギャラリー	全ギャラリー	
学芸担当者	今井	辻		住友、吉田	今井、沼下	今井	若山	
実施方法 ・委員会形式 ・助成 ・巡回展等		・美術館連絡協議会巡回展				・芸術文化振興基金助成金	・前橋の美術実行委員会	
最終修正日	2020/7/10	2020/7/10	2020/7/10	2020/7/10	2020/7/10	2020/7/10	2020/7/10	
【目的】 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	アーツ前橋の所蔵品を中心に、地域ゆかりの作家や作品を紹介する。開館以来、継続している作品の収蔵によりコレクションがより魅力的なものになっていることを知ってもらおう。  ターゲット: 近隣住民、市外の美術愛好者  1.コレクションへの理解が深まる 2.前橋に関わってきた近・現代作家を知る機会 3.気軽に美術に親しめる場としてのイメージの定着	これまでの地域ゆかり作家という枠から離れ、国内外の第一線で活躍するアーティストの個展を開催する。美術と舞台(演劇)を行き来しながら、スペクタクル性とドキュメンタリー性が交差するような作品を発表する、やなぎみわを紹介することで、現代美術作家の創造性に触れる機会をつくる。  ターゲット: 関東近県、美術や演劇の愛好者  1.日本を代表する現代美術作家の深み尽くせぬ創造性に触れる機会の創出 2.アーティストと他分野の専門家との協働および交流により、新たな観客の獲得	新収蔵作品を中心にアーツ前橋開館以降の期間、現在進行形で前橋と係わり、創造的な活動をしている作家たちを身近に感じられる機会を作る。  ターゲット: 近隣住民、市外の美術愛好者  1.コレクションへの理解が深まる 2.前橋に関わってきた近・現代作家を知る機会 3.気軽に美術に親しめる場としてのイメージの定着	2名の中堅作家の紹介をする。水墨画によって福島県相馬市の伝統行事に欠かせない馬を描き続け、近年は震災後の相馬〜東京間の風景画を制作している門馬美喜と、人工知能を応用したテクノロジーによって生まれる世界と表現を追求しているやんツーの展覧会。  ターゲット: 近隣住民、若年層  1.新たな観客の獲得 2.中堅作家に新しい作品発表の機会をつくる 3.自然や技術と人間の関係を考察できる展覧会にする	これまでのラーニング・プログラムでかかわりを持ってきた教育関係の人々と協働してプログラムを行う。また山本高之氏をゲストキュレーターに迎えることで、参加者と美術をつなぐラーニングの意味を問い直し、誰でも学ぶことの出来る展覧会となることを目指す。  ターゲット: 近隣住民、美術教育に関心のある方  1.新たな観客の獲得 2.既存のラーニング・プログラムを外部に紹介する。 3.中高生など新たな顧客の獲得と、その継続的な参画を作り出す。	2016年度から「表現の森」を通じて社会課題に対する美術館の役割を考察してきた。このような活動を美術館が行う背景を歴史的、美術的視点から改めて問い直す。精神医療や共同体のようなテーマを扱い、現代におけるアートの役割を再考する。文化人類学や社会学の専門家と協働し、美術以外の分野の人々にも関心を持ってもらえるような企画展を目指す。  ターゲット: 美術/歴史愛好者、福祉/医療/教育に関わる方  1.現代社会における美術館の役割を問い直す 2.異なる専門分野の交流 3.地域の歴史の再発見 4.アーティストと協働した新作発表の機会の創出	前橋ゆかりのアーティストの活動を通して、地域の芸術文化の現在を知ることができる。また、地域とアーティストの協働活動によって、次世代を担う若者や子どもたちに知己の芸術文化を継承することを目指す。  ターゲット: 前橋市民、若年層  ① 前橋ゆかりのアーティスト、ギャラリーほか、アートにかかわる様々な事業主体がネットワークを形成する ② コミュニティの協働と活性化	
【①投入】 成立予算	470千円	11,533千円(R1) 2,132(H31)	320千円	1,788千円	6,468千円	19,888千円	3,300千円	
【②内容・活動】 事業の概要	新たに収蔵された作品、近年前橋市が収蔵した美術品を取り上げ、作家や作品をこれまでのアーツの企画展との関わりとともに紹介する。	1990年代から現在まで現代美術および演劇界で注目を浴びてきた、やなぎみわの約10年ぶりの大規模個展。代表作を展示し足跡をたどるほか、新作では群馬、京都、高松、福島の学校と連携し、マシン4機が演劇を演じる作品を発表する。	新たに収蔵された作品、近年前橋市が収蔵した美術品を取り上げ、作家や作品をこれまでのアーツの企画展との関わりとともに紹介する。	門馬氏は過去作とシリーズ作品の新作、やんツーは新作を紹介する。新しい技術と共に長い歴史を持つ絵画を見直すような構成をめざす。	先進的な教育普及活動で常に世界の注目を集めるアート美術館でラーニング・プログラムのリサーチを行ったアーティストの山本高之氏の専門性を活かしながら、新たな学びの場としての美術館を提示する。	・外部有識者による企画検討委員会の実施(計4回程度) ・参加作家数 30作家程度 ・新作制作 10作品程度 ・企画展/表現の森の内容に連動したシンポジウム及び上映プログラムを実施	「前橋の美術2017」の継続と発展を企図して開催される展覧会および市民参加型イベント。アートを通して地域社会のつながりを再認識する。	
主な取り組み計画 ・広報戦略 ・新たな試み	1.新収蔵作品の公開 2.作家研究に基づいた展示構成。 3.鑑賞補助資料の作成(キャプションなど)	1.全国の美術館と共同で企画することで、各館のノウハウを学ぶ。 2.担当の分担により、業務の効率化を図る。 3.先行開催館に合わせることで、早くからの広報活動が行える。 4.群馬工業高等専門学校との連携により、他分野へアプローチする。	1.新収蔵作品の公開 2.作家研究に基づいた展示構成。 3.鑑賞補助資料の作成(キャプション、配布物)	1.それぞれの作家が講師をつとめる参加型ワークショップを計画する。	1.ゲストキュレーターを立てて、より専門性の高い展覧会とする。 2.親子向け、学生向けのワークショップを計画する。 3.市内の教育施設等との連携を行う。	1.外部有識者と企画会議を重ねることで、専門性また社会課題に対する理解を深める。 2.福祉/医療/教育分野の人たちに関心を持ってもらえるような先進的な企画とする。 3.市役所内の他課及び市内の関連団体と連携しながら、広報活動を進める。	1.市民とアーティストが対話する場をつくる 2.展覧会と同時期に市内ギャラリー各所で連携企画展を開催する 3.アーティストが学校や福祉施設等に共同事業を提案・実施する	
【数値目標】 入場・参加者数	6,000人	5,000人	5,000人	4,000人	4,000人	6,000人	5,000人	
【人数及び達成率】	4,981人 83%	3,535人 71%	人 %	2,413人 60%	3,531人 88%	4,691人 78%	3,104人 62%	
【事後記入】 【③結果、④成果】 ・目的、観覧者層のターゲット、ねらいに対する成果(評価調査からトピックを転記)	・これまでの収蔵品の中から一つのテーマを絞り込みその中でも地域にゆかりのある女性作家を中心に紹介することができた。 ・「群馬は有能なかの宝庫だ」とアンケートにある通り、群馬ゆかりの作家の豊かさを作品を通して知ってもらう機会を作ることができた。	・県外からの来場者を見込んでいたが、アンケートでは3割にとどまった。アンケートでは20代が一番多く、続いて50代、40代とやなぎと若者から作家と同世代まで幅広い世代が来館した。 ・写真、立体、映像、インスタレーション、パフォーマンスと現代美術の多様な表現に触れることができた。 ・県内の工業高校デザイン科の生徒が団体で来館したほかは、工業系の学生が増加したかは不明であった。		・夏休み中の開催だったため、会員の次に学生の来館が多かった。隣接する「前橋プラザ元氣2」の企画による親子(乳幼児)連れ団体来館があり、主に近隣の親子が訪れた。夏季開催の展覧会は、若年層の観覧が今後も期待できる。 ・今回は会場を地下ギャラリー4〜6とし展示スペースが拡大したため、旧作もまじえつつ新作も発表する機会となった。展示内容について作家と事前に詳細なやり取りを行い、新作発表を実現することができた。	・美術教育の在り方に対する疑問や視点を投げかけることができた。関連イベントの「図工と道徳」には多くの教育関係者が参加し、県内/市内でも関心が高いことがわかった。 ・アーツ前橋のこれまでのラーニングプログラムに関わる試みへの理解を促すことができた。 ・外部監修としてはいるアーティストとのすり合わせが非常に困難であった。	・外部監修の研究者やアーティストと共に企画を作ることで、博物館学、人類学、社会学などの分野横断型の展覧会を実現することができた。 ・地域の歴史を再発見するような新作を多数制作することができた。 ・事前のワークショップを通じて、市内のさまざまな団体と協働することができた。また、あかつきの村では施設と共同する形で外部プログラムも実現した。	・普段美術館に足を運ばない市民や高齢者の来館が多くみられた。 ・市内11ギャラリーと私設美術館と連携した関連企画や、市内中学校1校および福祉施設1か所アーティスト派遣事業を実施した。中心市街地5か所での活動や市内外の協力ギャラリーの企画によって、来場者が市内を回遊するしくみができた。 ・市内外の団体個人あわせて63件から協賛を受けた。	
特記事項			山本高之とアーツ前橋のピヨンド 20XX:未来を考えるための教室の第1章内での展示に変更				新型コロナウイルス感染症拡大防止のため3/3で閉幕	

令和元年度 アーツ前橋 事業企画一覧表【ラーニング等】

館の共通目標	安定した運営体制の確立。継続事業は効率化させ、検証や計画に十分な時間をとることで質を向上させていく。							
細事業別目標 【文化支援/普及事業】	教育や福祉など各分野に対して、芸術を通じたラーニングの役割をしっかりと示しながら実施していきたい。							
事業名称	アーティスト・イン・スクール(学校連携)	あーつひろば	アーツナビゲーター研修	表現の森継続事業	数値目標記載事業			
時期・日数	第六中学校 2019年8月～2020年7月、10月、11月、1月、3月 勝山小学校 2020年1月(1日) 桃川小学校 2020年1～2月		7月～3月 6回	(1)アリスの広場 12回/1年 (2)南橋団地 12回/1年 (3)えいめい 6回/1年 (4)のぞみの家 6回/1年	(1)メンバーシップ会員 個人:90人(83人) ペア:50人(42人) 賛助:2人(1人) 法人:25社(21) 収入:1,000千円(819千円) (2)先生の無料招待ウィーク 30人(19人)			
場所	市内小中高等学校	スタジオ・交流スペース	スタジオ・ギャラリー	ギャラリー、館外(アリスの広場、桃川小学校、南橋団地、えいめい、のぞみの家など)	(2)先生の無料招待ウィーク 30人(19人)			
学芸担当者	吉田、若山、今井	沼下、若山	辻	今井	〇内H30年度実績			
実施方法 ・委員会形式 ・助成 ・巡回展等	・アートによる対話を考える実行委員会 ・文化庁クラスター形成支援補助金			・アートによる対話を考える実行委員会 ・文化庁クラスター形成支援補助金				
最終修正日	2020/7/10	2020/7/10	2020/7/10	2020/7/10	2020/7/10			
(目的) 参加者層のターゲット ・ねらい	学校生活の中で質の高い芸術に触れ、アーティストとの交流を行いながら児童・生徒の表現力やコミュニケーション能力を育成する。  ターゲット: (1)小学校～高校の児童・生徒、教員  ・児童・生徒が現代美術の表現の多様さを知る ・アーティストと活動を行うことで、表現力が身につく	1.サポーターやアーティストによる多様な芸術体験を通して、アーツ前橋への来館促進を行い、将来の自主的な鑑賞者を育成する。 2.サポーターが企画・運営のノウハウを身につける。  ターゲット:アーツ前橋に来館したことのない親子(隣接施設利用者等)  ・初めて来館して造形活動や鑑賞を体験しながら、アーツ前橋は自己や他者の表現が認められる場所であることを理解する ・サポーターが企画や運営へ継続的に関わる。	美術鑑賞は敷居が高いと思っっている人たちが作品や作家についての知識を得ることが作品鑑賞だと考える人に、自分の眼で作品鑑賞する楽しさを知ってもらおう。  ターゲット:事業主旨を理解し、アートやコミュニケーションが好きな人  ・アーツナビゲーターのスキルアップと、研修後も自主的な活動を行い、展覧会ごとに「おしゃべりアートデイズ」を実施できるような組織作り	・アート/美術館が社会課題に対してどのような役割を果たせるのかを考える機会を創出する。 ・アーティストを軸にしたアートプロジェクトを運営することのできる人材を育成する。 ・地域の福祉/教育現場との連携関係を築く。  ターゲット:美術館から精神的/物理的にもアクセスが最も難しいと考えられる人  1.アート/アーティストを通じて福祉/医療/教育における社会課題を見つめ、美術館へのアクセスに困難を抱える人たちにプログラムの参加を促進する。 2.アウトリーチプログラムを通じて、美術館へのインリーチを繋げる。				
〔①投入〕 成立予算	1,040千円	900千円	448千円	2,838千円				
〔②内容・活動〕 事業の概要	(1)アーティスト・イン・スクール:アーティストの学校への派遣 (2)教員向け広報物作成、無料招待ウィーク:児童生徒とのつながり手である教員向けに広報を行い、アーツ前橋の事業への理解を促す	サポーター等と協働しながらアーツ前橋に親しみ、多様な芸術に触れるワークショッププログラムを実施	来館者と一緒に対話しながら作品鑑賞をするファンリテーターの育成。作品研究の方法や、ガイドプランの作成や、実践でのコーチングを行いながら、情報提供型のファンリテーションを学ぶ。	(1)アリスの広場×滝沢達史 (2)南橋団地×中島佑太 (3)市内高齢者施設×石坂玄士/山賀さくろ (4)のぞみの家×廣瀬智央/後藤朋美 が、定期的なワークショップやリサーチプログラムを行う。				
主な取り組み ・広報戦略 ・新たな試み	実施予定校を前年度に調整し、決定する	子どもまつり等まちなかの大規模イベントと連携し、広報活動を効果的に行う	展覧会会期中に「おしゃべりアートデイズ」を実施し、来場者とともに作品鑑賞ツアーを行う。 公民館などに参加者を呼びかける。	H30年度事業の反省や課題を考えながら、関係各所との連携関係を深める。また、プロジェクトを広く周知するための記録媒体の拡充を図る。				
(数値目標)=[結果]	実施校数 4校	結果 3校	実施回数 大規模:3回 小規模:2回	結果 2回	自主研修回数 15回	結果 15回	ワークショップ実施回数 36回	結果 21回
指標1			参加者数 450人	300人	おしゃべりAW参加者数 100人	115人	参加者数 400人	576人
指標2	学校規模による	305人						
指標3					受講継続数 10人	10人		
〔事後記入〕 〔③結果、④成果〕	・第六中学校のプログラムでは、映像をテーマにアーティスト/教員/学芸員が連携して授業を組み立てた。関東甲信越静地区造形教育連合で公開されたことにより、AIS事業を広く知ってもらう機会になった。 ・桃川小学校ではこれまで図工授業の補助教員としてのプログラムを行っていたが、本年度はワークショップ形式のプログラムを組むことができた。 ・勝山小学校では、身体的な表現を取り入れコミュニケーションに	・第1回夏の展覧会関連イベントとして、七夕にあわせて実施した。七夕飾りに見立てて展覧会会期中、交流スペースに展示した。 ・第2回は、サポーター企画で彼らのアイデアの中から、オリジナルトートバックをつくるプログラムを実施した。これもアート探検や、ウマくなくてもいいスタジオは定着しつつある。	・新規4名の申し込みがあったが、最後まで研修を受講したのは1名だった。昨年度からの継続者と合わせて10名が活動している。 ・本年度から新たに使用しているウェブサイトが使いにくく、自主研修のスケジュール調整や意見交換が上手くいかなかった。「おしゃべりアートデイズ」終了後のふりかえりなど、自主的に行っている。	・新規の連携先なども増え、プロジェクトの対象者のみならず、施設のスタッフやご家族の方たちからもプログラム内容への理解を促すことができた。 ・福祉の側からの活動に対する意見交換をしながらプログラム内容を改善することができた。 ・アリスの広場の活動は、LGBT支援団体のハレルワと連携することで街中への新たな拠点づくりへと発展し、若者たちが主体的に活動に参加する機会を促した。				
特記事項								

令和元年度 アーツ前橋 事業企画一覧表【地域AP・文化支援】

館の共通目標	安定した運営体制の確立。継続事業は効率化させ、検証や計画に十分な時間をとることで質を向上させていく。																																																	
細事業別目標 【文化支援/普及事業】	作家の制作支援として、地域性や領域横断性といった特徴を運営体制や調査研究に反映させていきたい。																																																	
事業名称	滞在制作(海外) (1)キム・ジェミニ (2)増田拓史 (3)カシャ・フダコウスキ	滞在制作(群馬県ゆかり) (1)三枝愛 (2)飯沢康輔	地域アートプロジェクト(長期プロジェクト) (1)地域調査+トーク (2)ダイニングプロジェクト (3)コンセプトマップ作成	文化支援プログラム 前橋まちなかアーツ助成	文化支援プログラム (1)身体の人たち (2)駅家ノ木馬祭り																																													
時期・日数	(1)2019年6月3日～8月29日 88日間 (2)2019年7月3日～8月30日 59日間 (3)2019年12月9日～2020年2月9日 63	(1)2020年2月17日～3月31日 44日 (2)2020年2月15日～3月31日 46日	(1)2019年11月頃～2020年3月末 (2)2019年12月～2020年3月 (3)2020年3月頃	2019年9月30日～10月27日	(1)2019年9月～2020年3月 (2)2019年9月～10月																																													
場所	堅町スタジオほか	堅町スタジオほか	市内各地	中心市街地各所	中心市街地各所																																													
学芸担当者	五十嵐、吉田、池上	五十嵐、池上	五十嵐、池上	五十嵐、池上	五十嵐、吉田、池上																																													
実施方法 ・委員会形式 ・助成 ・巡回展等	アートによる文化交流推進実行委員会	アートによる文化交流推進実行委員会	アートによる文化交流推進実行委員会	アートによる文化交流推進実行委員会 で助成 実施:各団体	アートによる文化交流推進実行委員会 で助成 実施:各実行委員会(身体の芸術、木馬)																																													
最終修正日	2020/7/10	2020/7/10	2020/7/10	2020/7/10	2020/7/0																																													
【目的】 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	・多様な国や地域で活動するアーティストを地域に紹介し、創作活動を支援。 ・海外のアーティストの目を通じた地域資源の発掘。 ・前橋で制作された作品を通して海外に前橋を発信。 ・地域の作家や住民との長期的な関係性を構築する。  ターゲット:近隣住民、市内 ①地域資源の発掘 ②海外での発信 ③多文化交流の機会創出	・作家の創作活動支援。 ・市内・県内での活躍の場を広げる。 ・東京などの人口集積地や、自分に地縁のある場所だけにとどまらない発表の場の創出とそのネットワークの形成。  ターゲット:近隣住民、県内 ①館外活動により、幅広い層への活動紹介 ②活動拠点の創出	・作品としての「モノ」ではなく、継続されていく「コト」に視点を置き、活動を行う。 ・アーティストのみならず、様々な人が関わり合い、意見を交わし、世代を超えてつなぐべく、長期にわたる市民の創造性に訴えることのできる事業を行う。  ターゲット:地域住民、市内 ①地域資源の発掘と再評価 ②アーティストと市民の知識の共有と交換	・市民が様々な芸術文化に触れる機会の創出。 ・まちなかで活動する芸術文化団体等への支援及び相互の交流機会の創出。 ・まちなかの回遊性の向上によるにぎわいの創出。  ターゲット:近隣在住者、美術以外の芸術表現に興味を持つ市民 ①芸術文化に関わる人材の増加 ②地域で活動を続ける個人・団体への長期的な活動支援	・身体表現等の視覚芸術以外の表現活動の継続した支援 ・市内を中心に文化活動を続ける団体・個人とのネットワーク形成。  ターゲット:芸術になじみのない市民 ①地域の表現者コミュニティとの連携強化 ②地域における活動の場・機会の創出																																													
【①投入】 成立予算	5,814千円	879千円	2,146千円	1,800千円	1,270千円																																													
【②内容・活動】 事業の概要	国内外で活躍する外国人作家を招聘し、滞在制作活動を行なう。本年度、韓国の国立現代美術館レジデンス・コヤン(MMCA Residency Goyang)との二国間交流事業により、1名のアーティスト派遣。	群馬県にゆかりのある作家に対し、地元での制作環境を支援するため、滞在制作を行なう。また、スタジオのみを提供するプログラムを行う。	(1)地域調査をもとに、現在の市の課題を掘り上げ、現在における公共の表現の可能性を探る。 (2)共食の場を持ち、意見交換をすることで、これまでの事業関係者のネットワーク強化や新たな関係性の構築を目指す。 (3)これまでの活動を振り返り、事業間の有機的なつながりを視覚化し、今後の指針となるような図を作成する。	過去5年実施してきた、まちなかで活動している芸術文化団体への助成。めぶくフェス(アート部門)との役割分担を踏まえ、より芸術活動に軸をおいて継続的(3年以上の実績)に活動する団体・個人を支援する。	まちなかで活動するアーティストやクリエイターなど、芸術文化を担う民間の主体と協働してイベント等を企画する。 (1)身体芸術 (2)駅家の木馬実行委員会																																													
主な取り組み計画 ・広報戦略 ・新たな試み	・1組は新たに韓国のレジデンススペースMMCA Goyangとの交流プログラムによって作家を交換し、事業を実施する。	・年齢の枠をなくし、多様な年齢・ジャンルの受け入れを行う。 ・滞在はないが、地域のアーティストに対し、スタジオを提供することで制作環境のサポートを始める。	・アーティストや専門家を交えた広く市民参加の可能な勉強会の開催。 ・持続可能/長期わたるプロジェクトの実施に向けた体制作り。	・参加者ミーティングの実施によるプレイヤー相互の理解、相乗効果による発信 ・助成金申請額を最低1万円に設定し、柔軟に対応 ・自己負担金を設定し、長期的な自立支援を目指す。	・助成事業とすることでより自立的な事業の開催を目指す。 ・他事業との広報連携を行う。 ・自己負担金を設定し、長期的な自立支援を目指す。																																													
【数値目標】-【結果】	<table border="1"> <tr> <td>指標1</td> <td>招聘アーティスト 2組 派遣アーティスト 1組</td> <td>結果 3組</td> </tr> <tr> <td>指標2</td> <td>イベント回数 3回</td> <td>結果 3回</td> </tr> <tr> <td>指標3</td> <td>参加者数 100名</td> <td>結果 130名</td> </tr> </table>	指標1	招聘アーティスト 2組 派遣アーティスト 1組	結果 3組	指標2	イベント回数 3回	結果 3回	指標3	参加者数 100名	結果 130名	<table border="1"> <tr> <td>指標1</td> <td>招聘アーティスト 1組 スタジオ利用 1組</td> <td>結果 2組</td> </tr> <tr> <td>指標2</td> <td>イベント回数 1回</td> <td>結果 3回</td> </tr> <tr> <td>指標3</td> <td>参加者数 50名</td> <td>結果 70名</td> </tr> </table>	指標1	招聘アーティスト 1組 スタジオ利用 1組	結果 2組	指標2	イベント回数 1回	結果 3回	指標3	参加者数 50名	結果 70名	<table border="1"> <tr> <td>指標1</td> <td>参加アーティスト数 4組</td> <td>結果</td> </tr> <tr> <td>指標2</td> <td>イベント回数 6回</td> <td>結果 4回</td> </tr> <tr> <td>指標3</td> <td>参加者数 200名</td> <td>結果 36名</td> </tr> </table>	指標1	参加アーティスト数 4組	結果	指標2	イベント回数 6回	結果 4回	指標3	参加者数 200名	結果 36名	<table border="1"> <tr> <td>指標1</td> <td>支援対象団体数 11組</td> <td>結果 11組</td> </tr> <tr> <td>指標2</td> <td>イベント回数 15回</td> <td>結果</td> </tr> <tr> <td>指標3</td> <td>入場者数 1000名</td> <td>結果</td> </tr> </table>	指標1	支援対象団体数 11組	結果 11組	指標2	イベント回数 15回	結果	指標3	入場者数 1000名	結果	<table border="1"> <tr> <td>指標1</td> <td>参加団体数 2組</td> <td>結果 2組</td> </tr> <tr> <td>指標2</td> <td>(1)総参加者数 50名</td> <td>結果 87名</td> </tr> <tr> <td>指標3</td> <td>(2)総参加者数 50名</td> <td>結果 380名</td> </tr> </table>	指標1	参加団体数 2組	結果 2組	指標2	(1)総参加者数 50名	結果 87名	指標3	(2)総参加者数 50名	結果 380名
指標1	招聘アーティスト 2組 派遣アーティスト 1組	結果 3組																																																
指標2	イベント回数 3回	結果 3回																																																
指標3	参加者数 100名	結果 130名																																																
指標1	招聘アーティスト 1組 スタジオ利用 1組	結果 2組																																																
指標2	イベント回数 1回	結果 3回																																																
指標3	参加者数 50名	結果 70名																																																
指標1	参加アーティスト数 4組	結果																																																
指標2	イベント回数 6回	結果 4回																																																
指標3	参加者数 200名	結果 36名																																																
指標1	支援対象団体数 11組	結果 11組																																																
指標2	イベント回数 15回	結果																																																
指標3	入場者数 1000名	結果																																																
指標1	参加団体数 2組	結果 2組																																																
指標2	(1)総参加者数 50名	結果 87名																																																
指標3	(2)総参加者数 50名	結果 380名																																																
【事後記入】 【③結果、④成果】 ・目的、観覧者層のターゲット、ねらいに対する成果(評価調査からトピックを転記)	初めての交流プログラムの実施となったが、大きな問題もなく行うことができた。また、キム、フダコウスキともに多くの市民との交流を行い、作品へ出演や協力が見られた。	滞在期間中にコロナウイルスの影響でオープンスタジオは実施内容を変更しての開催となったが、予約制としたオープンスタジオは例年通りの参加者数があり、トークを映像配信にしたことで、群馬県以外の人たちにも「滞在制作事業」について伝えることができた。	コロナウイルスの影響で、当初予定していたイベントが実施できなくなった。ダイニングプロジェクトは6回中3回のみ、地域調査に関してはトークではなく内部会議としての開催になった。今年度は主に調査を中心に行ったが、次年度以降成果をもとにより多くの地域住民との交流が期待できる。	助成事業として5年目となり、採択団体の多くは、これまで地域での活動を継続している団体であり、継続して応募する団体も多く、一定の認知と活動支援につながっていると考える。	高団体ともに、団体主体の活動が定期的に行われ、認知も上がりつつある。																																													
特記事項																																																		